李稿大阪訪碑錄

解題

一　本書『稿本大阪訪碑錄』は、大阪木村敬二郎翁が三十年に近い熟心の結果に成つたものです。翁は河內國三宅村の名門に生れ、夙に贄を藤澤南岳先生に執り、研鑽多年、篤處の雅號によりて交友の閒に推重されてゐます。翁は、いつから掃墓のことに興味を有せられることになつたか、その動機については明瞭（ハッキリ）しませんが、『この稿本のうち、最初に拓本にとられた墓は、どれでしたか』と問ひました時、翁は莞爾として『それは上宮（ウヘノミヤ）の藏鷺菴にある永富獨嘯庵の墓か、超願寺にある北山七僧の墓かと思ひます』と答へられたのでした。翁は齡古稀に近く、耳稍遠しと雖も、猶ほ矍鑠として壯者を凌ぐの慨がございます。翁は、本會の乞ひに應じて此の未定稿を世に出すに際し、『斯る拙いものを』と、幾度か謙遜されたのでした。

一　浪速名流の墓所を書いたもので、明治以後の刊行に、宮武外骨氏の『浪華名家墓所集』と、鎌田春雄氏の『近畿墓跡考』とがあります。その以外、大田蘆陰君（君は名を源之助といふ、攝津今宮の人、隱れたる篤學者で、常に先賢の墓碑を訪ひ、その碑文を寫し來るを日課としてゐたが、今は故人となり、その手澤の存する未定稿は、現に大阪府立圖書館に保存されてあります）が生前蒐集した『浪華碑文錄』がございます。本會は這次この『稿本大阪訪碑錄』を刊行するに際し、木村翁が踏査されたるものと、是等

三書とを對照し、その足らざるものは、翁の再調査を煩はしましたが、その多くは、寺は尙ほ依然として存在してゐても、その墓碑の存してゐないため、これらの拓本は、とることが出來ず、已むを得ず省くことゝしました。（此のことについては別項『凡例』を參照ありたし）。

一　右の外、本會は更に近時物故せし諸名士及び一技一能に秀でし人々の墓をも調べ、其拓本は木村翁の手より本會に送られしもの現に八十餘枚に達し、猶ほ取調濟、又は取調中のものも多數ありますが、この部分は、他日別に本冊の續篇として、何等かの方法によりて、我が叢書中に收錄することに致したいと思ふて居ります。かうして完全の上にも完全ならんことを所期するため、本會は及ぶ限りの努力を致しました。又、この訪碑錄は、最初は二冊として刊行する豫定でしたが、組方を工夫し插入の凸版を小さくするなど、毫も其の內容を減ぜず、これを一冊に纏めるため、種々の苦心を重ねました。そのため、本冊は我が叢書の他の篇に比し、著しく頁數が多くなつて總頁七百以上に達することになりました。

一　多少にても世人の稗益となるべき書籍の編著は、容易なことではありません。まして本書の如き、その一つ一つの拓本にも翁の熱誠が籠つて居るのであります。春といはず、秋といはず、炎熱熾くが如き夏の日にも、寒風凜烈の冬の日にも、苟も家事の暇さへあらば、翁は孜々とし

て此の事に從ひ、年と月とを重ねた結晶が、遂に其の量に於て未だ曾て有らざる此の『稿本大阪訪碑錄』となつたのでございます。

一　この訪碑錄の原稿は、凡て美濃紙を用ひ、拓本の大部分は、その紙の半丁大に撮られ（中には壹丁全部に撮られたものもあります）碑文の寫しは、毎半丁、十行、二十四字詰に記され、中には朱點を以て文章の句讀を施したところもあります。かうした原稿が壹千五百餘丁、悉くこれ實地踏査の成果でございます。

一　翁が掃墓に着手されて以來、短からぬ歳月が經過しました。されば其間、市區改正その他により、寺の移轉に伴はれて、墓碑の引越したものもありませう。また、寺は以前のまゝでも、無縁となつたゝめに、いつか所在不明となつた墓碑もございませう。さかし、それらも、翁が親しく掃墓されたるときは、たしかに其所に存在してゐたもので、よしや現存はせずとも、本書によりて、曾て其所に存してゐたことが明かに證することが出來ます。現に翁の話によれば翁が曩に拓本をとつたもので、今次その碑文の寫しを讀み直した際、文章に疑義を生じ、これを其の碑に就いて訊さんため、再び其の寺を訪ひしに、その墓は何處へか既に姿を隱して、訊すに由なかつたなどのこともあり、それのみならず、林羅山の門弟にして一百十六歳の壽を保

ち得たりと傳へられる大阪の碩儒一井鳳梧（紀元二二七六年生同二三九一年歿）の如きは、高津寺町圓妙寺にその墓ありと諸書に記されてゐますが、前年、木村翁が掃墓の時、既にその墓は、其所に存してゐなかつたのです。桑田碧海の喩、今日の存在は決して明日の存在を請合ふ譯にまゐりません。

一　本書を瞥見して、此の多數の故人のうち、浪速の名流の中に數へなくてもと、首を傾けらるる人の墓碑が多少はあるでせうが、世には自家の功業が生前に認められず、死後幾十年、幾百年にして、始めて顯はれ來ることがないには限りません。されば、今日の人の目から、第二流第三流とせられてゐる故人の隱れたる功績が、他日、世に明かになつた時、その墓碑に刻まれた歿年月日の十數字が、いかに貴重な資料として世に迎へられることでせう。かう考へて來ますと、木村翁が蒐集された是等の墓碑銘は、逝ける人々のために永久に保存されねばならぬものと存じます。

一　本書の原稿は、漢文は總て白文です。去かしこれを其のまゝにして置くよりはと、本會は木村翁を介して、有香梅見春吉氏を煩はし、返り點幷に句讀點をつけ、更に藤澤黃坡先生の校閲を經、始めて刊行することに致しました。また本書に收載する人名の排列は、五十音順にいたしましたが、中にはその姓や名の訓方（ヨミカタ）に異論がないとは申せません。去かし、及ぶだけは、編

者たる木村氏の意見を尊重することに致しました。これは一言附け加へて置きます。

昭和四年五月

習。其他至若茗理歌道蹴鞠謠曲插花法。無不該能。娶成瀨氏一生一男。早夭。養水足安次之第二子安義爲子。妻以成瀨氏之姪。安義承嗣。邑入二百五十石。爲更番騎。嗚呼我先人之嘗遊於攝也主君之家。後數祇役江戸也往還必訪君。君之到于藩也。又必數相見。不唯有相知之舊而已。君嗣安義先人之外孫也。是以君之歿也安義請碑文於先人。先人既諾。然未立稿而沒矣。安義請之于允。允之於君雖有瓜葛之好。索居海外。不熟其爲人。君之友人中村雄飛之子嘉賓。偶至自攝。於是與之謀之。略述其狀。銘曰。

事親孝順。　祿官嚴肅。　家和職理。
內外皆服。　人稱夙慧。　又美老熟。
加以多藝。　名聲惟馥。　滔々天下。
誰比其淑。　天莫知耶。　何數之促。

肥藩　第十一號番騎大城允撰
第十號番騎大槻弘書

萱野三平墓

豐能郡萱野谷
芝村共同墓地

（萱野三平墓）

三平名重實。攝津州萱野鄉人也。其先出於鎭守將軍源賴光第六男信濃守國房。國房裔孫左京大夫賴益。當建久正治之間。食邑攝津州萱野。號萱津氏。萱津卽萱野也。其後恆

次食萱野長谷兩鄉。邑民謂之萱野君。其後大隅守恆時領三十有七村屬荒木氏。荒木氏亡而失領邑。恆時子恆孝。恆孝子恆產。事大嶋氏。恆產子恆重。恆重子重利。皆食其祿。重利有二男。長曰重通。三平其次也。三平十三歲時。因大嶋羽州之言。見內匠頭淺野侯長矩于赤穗城。遂臣事之。東西隨從元祿十四年三月十四日。侯有故身封亡絕。三平以勁健輕捷爲衆選。與早水滿堯二人告事于赤穗城。日走數十里。道經萱野過其門。遇人舁喪而出。云萱野重利之妻之柩也。三平大駭。方寸內亂。乃慨然曰。我之此行君事也。吾豈敢稽之也哉。不顧而去。遂達于赤穗城。已而城人四散。三平亦歸于枌里。乃善居母喪。事父克孝。然未嘗忘其君。時大石良雄在京東山科鄉。窃會舊僚。圖復君讎。初同志者甚衆。依違日減。三平一守其志。金石不渝。月日自萱野而過之。以議厥事。未幾三平白父將東。父曰吾固知汝之志將以酬恩報仇耳。設遂其事。老父一門不足恤也。奈累及吾主何。吾之於我君。汝之於汝君。其心一也。三平又白曰。大人今逐某而除其籍。何累之有。父曰。父子天性不可離也。汝果行其志。唯比義可也。此餘不復言。三平聞其命而止。明年正月十三日作書與良雄書。使一赤脚齎山科。日既夕矣。乃薰沐盥漱。見父與家人譚笑。更闌而寢矣。明日自卯至辰。房戶不開。家人怪而闕之。則東嚮自刺而死。父戒家人深隱之。乃以猝病死告

鄰里。葬之于村井山中。時年二十八。號涓泉。其之大石氏者寅刻到山科。良雄獲書。展讀大感其義。輒召同志者視之。或爲之激勵。或爲之泣下。嗟歎之聲移時而止。蓋與萱野伏劍之時同云。嗣子長好。少學于京師。嘗乞伊藤長胤作三平傳。又謁芝山三位重豐卿。以國語作忠孝記。去歲冬客有携其傳至東都者。祭酒林先生見之深嘉其忠孝。乃爲序其傳。頃者長好葺理其墓。請百拙和尚大書其姓名于石。屬余銘。余曰。嗚呼甚哉人性善也。向讀義人錄。未嘗不流涕感歎。夫四十六士爲君復讎。雖古烈丈夫何以過之。及讀三平傳記。獨哀其不敢違父命齎其志而沒而不在四十六士之列。雖然三平殺身於前。四十六士捨生於後。成仁取義。於此庶幾焉。則夫何怨。宜乎縉紳先生爲文以傳也。此不可以不銘。銘曰。

人之爲人。以性命理。性命理何。仁矣義矣。仁義用者。忠耳孝耳。違則小人。順則君子。三平忠孝。兩全一死。維石不磷。令名在是。

元文五年庚申正月十四日

南湖堀正修誌　嗣子長好　孝孫重好建

菊川道山墓

下寺町　超心寺

菊川道山御家流書家ニシテ名高シ俗稱喜造ト云フ歿日正月二十一日トアリ（浪華名家墓所集）

（側）　文化九年壬申五月廿八日

衣川長秋墓

（衣川長秋奥墓）

餌差町

圓珠菴

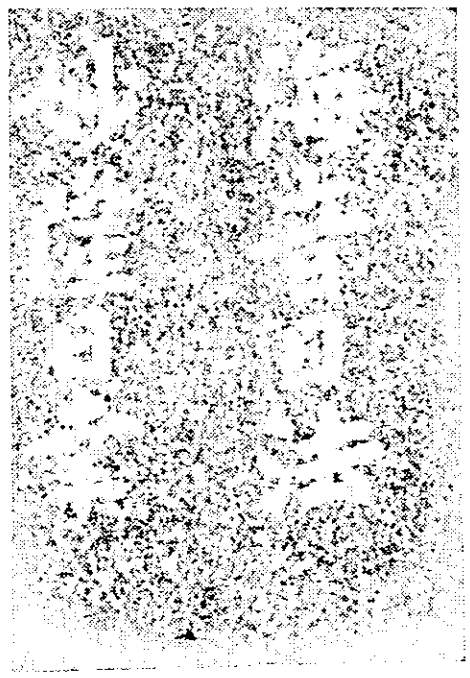
衣川宰記源長秋主波。伊勢國壹志郡須川里池田某乃子也。所由有而衣川乃家乎嗣留奈利。本生池田氏波吾本居族也。此主波寛政三年鈴屋翁乃敎子登成弖。古學麻那備得而後鳥取殿爾奈毛仕良禮計留。其殿人乎始因幡伯耆乃國人等爾。初而古學歌學敎傳多留波此主乃功爾奈毛有計留登曾。雅名瓊齋翁登號玖。一年秋頃京爾上弖有計留閒。冬頃病發而急計玖不愈而。翌年正月敎子中嶋豐足賀浪華乃旅居爾徙寓利弖終爾身罷良禮奴。其日波文政五年二月十日。年五十八歳。葬禮留地波高津圓珠菴契沖阿闍梨乃墓乃側卽此所也。言置禮多流爾依弖奈利。因幡伯耆乃國人等乃豐足爾言傳弖吾許乞於已勢多流麻爾麻爾如此言也。

本居大平

紀海音及鯛屋貞因墓

上本町六丁目　寶樹寺

紀海音本名榎並貞哦由緣齋貞柳ノ弟ニシテ浪華ノ人ナリ俗稱鯛屋喜右衞門後善八ト改ム菓子ヲ製シテ營業トス嘗テ僧トナリテ黃檗ノ悅山和尙ニ屬シ高節ト云フ和州柿本



（妙法　清潮院海音日法
月慶院妙隆日幸
享保十五庚戌年九月二日

（臺石）
たいや
忠七

（側）妙法
夏善
知幻
秋惠通心
延享元子二月廿二日

（側）妙法
貞因　正因　清壽　妙了
妙因　道休　樹性　敎念
久有　智清　敎心　淨慶
妙智　了心　敎善　淨玄

寺ニ所化タリシトモイフ後還俗セリ契沖阿闍梨ニ從フテ和歌ヲヨクシ契因トイヒ鳥路觀ト號ス戲レニ淨瑠璃ヲ作リ紀海音堂ト稱ス豐竹座ノ爲ニ作ル所數十番近松ト竝ヒ稱セラル元文元年ノ夏連歌ヲ以テ法橋ニ敍セラル寶保二年壬戌十月四日歿年八十墓ハ八丁目寺町寶樹寺ニアリ法號淸潮院海音日法居士臺石ニタイヤ忠七ト彫付アリ忠七ハ海音ノ子ニシテ俳名ヲ貞風トイフ（浪華人物誌）

貞因大坂ノ俳人ナリ氏ハ榎竝通稱鯛屋善右衞門菓子ヲ造ルヲ以テ產業トス安原貞室ノ門人ナリ山城大掾ニ任ス貞室天水錢ヲ以テ因ニ授ク因机上ニ於テ朝夕之ヲ珍愛ス一號ヲ白石齋ト云元祿十三年三月三日歿ス年八十（俳家大系圖、俳諧年表）

木村蒹葭堂墓

山小橋

大應寺

〔蒹葭翁之墓〕

寢食不レ忘者七年一日也。今也其親戚多以爲レ死。或哭或奠焉。余未レ決二其存沒一也。然而既已死亡則幽魂其何處依據焉。是以欲レ止不レ忍也。因以二解纜之日一爲二亡日一。建二碣於城南大念寺一。長右衞門娶二三宅氏一。生二一女一男一。尙幼。以享保戊申生。至二明和乙酉歲一實三十有八。私謚曰二本覺自到一。水手十有五人姓名未レ詳。故以二花名一俱刻レ石。而令二其親戚奠焉一云。

明和辛卯冬十月朔　田中仲暢誌

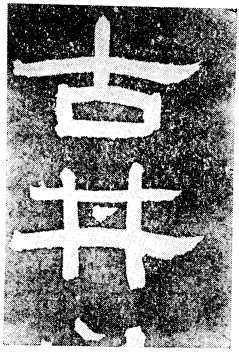
鹿田靜七墓

夕陽丘町　春陽軒

明治三十八年八月十三日歿

知友　從五位大村屯書

（釋古井之墓）



（臺石）

鹿田氏

敷田年治墓

阿部野墓地

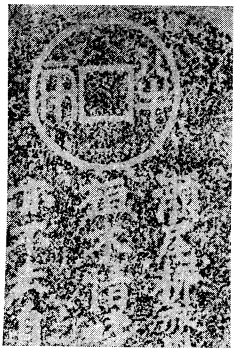
津國阿倍野迺原に葬り奉れる吾師敷田年治大人は豐國の宇佐縣敷田里に坐ませる二葉山神社の祠官宮本包繼主の眞名子にして文化十四年七月廿日に生れ給ひ幼名を主計之助と申し天保十年二月三日同縣四日市町の蛭兒神社の祠官となり弘化三年閏五月廿九日從五位下に敍せられ敷田年治ト改メ給ひ文久三年二月二日東都に出立し和學所の教官となり明治元年七

濟其饑寒。爲僦逢葬。奉養愼至。專以復主人家爲意。數奇不遂志。而尙無恙者。一賴先生之扶助。其忠節之切。視者感涕。吁先生可謂有行矣。寛延己巳年九月廿七日以疾卒。享年五十六。門人等經紀後事。葬福泉寺。銘曰。

天資才發。墨妙有章。忠懇之操。遺名無疆。

寛延二年十一月　門生等謹撰

瀨尾桓翁墓



上本町四丁目　大念寺

瀨尾柳齋
姓藤原名
嘉冬別□
桓本情嗜
古錢不喜
市井喧□亦不去自深五柳子偉哉可
□

生玉寺町　西方寺

仙果亭嘉栗墓

（由甲齋仙果嘉栗居士）

居士諱高業。字公勤。姓藤原。其先曰大職公右馬助信生。御堂關白道長三世之孫也。領采地於近江滋賀郡三井之邑。至孫正三位右衞門督定臣。始以三井爲家號。其裔孫三井宗慶。諱高博。居士之父也。母三井宗清之女也。居士之兄高邦。稱次郎右衞門。

後改稱八郎次郎。居士以延享四年丁卯正月七日生。幼名曰長次郎。後改稱八五郎。又稱治郎右衛門。高邦以安永七年戊戌三月廿九日歿。無子。因以居士爲嗣。明和九年壬辰七月十九日。乃繼承管　大府飛幣務職事。娶長井九郎右衛門高孚之女。先歿。葬于衣笠山下等持院。生女。長曰峰。次曰駒。早夭。男曰虎之助。亦夭。天明四年甲辰十月。讓職於庶出長五郎高尹。而身携妻子。退寓于其族家原氏之家。於是養同族安之允政董之男安之助政昭爲子。以女峰與之配。政昭號嘉蘭。年尚少。居士攝視其家事。因更稱氏家原。改俗稱以其幼名曰長次郎。寛政八年丙辰十二月。有故徙于近江大津。九年丁巳五月。復徙于浪華江戸渠。居士有才器。又自幼好讀書。及成童受業於世繼井齋。歿後見澁井太室。□□□師。平生所交多風流之士。晩年專耽　本邦舊記之書。人稱其博覽彊記。又好戲歌。宗尚右緣齋□風。明和三年丙戌冬。遂爲栗柯亭木端之弟子。深究其道。號曰嘉栗亭。稱曰仙果。皆木端所命也。□號曰由甲。以其本生於京油巷。當押巷之里。因拆其兩巷之字也。其所詠膾炙人口者頗多。卜居□師道大行。亦由居士鼓動之力云。遊居士之門者。亦日隆月盛。所著有熟思反古。雙岡貞柳傳。辰□諸書。皆已梓行。有搢紳某公。大賞其書。特賜之序文。有諱故闕其名云。木端歿後。其門人會集。閱□遺書。其中有書。曰嘉栗篤志

吾道者也。與任風子相並以奬之。任風子其高足四人之一也。有□□子與居士交尤厚。時在其坐親見之。後以語之於居士。居士悅願請一覽閱之。或曰既祕封矣。□□終身以爲憾云。居士身生豪族。而自奉如貧人。不好矜飾。恆衣布葛。不修容貌。雖嗜酒不□□□□。以不足爲其樂。又有山水癖。善登涉。出門必携一簞一瓢。每遇適意之境。不醉不還。有□□□□□寫其景致。是以世所稱名區。蹤跡殆遍。自明和二年乙酉秋。至寛政十年戊午夏。□□□□□□五國如大和芳野山。至十三廻。其他東奥北越常陸兩肥淡島但馬兩豐率再游云。寛政十一年己未四月廿日。携門人嘉文楚石等泝于伏見。卒發癰疾。輿載歸家。針灸無驗。廿四日壬子歿。年五十三。葬于浪華生玉西方寺之後園。銘曰

富而不驕。灑脫知命。克復其初。保厥宗姓。晚節最高。優游戲詠。

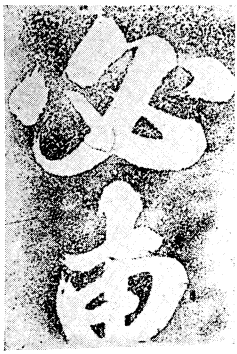
寛政十一年己未七月十七日

平安　皆川愿撰并書

泉必東墓

生玉前町　菩提寺

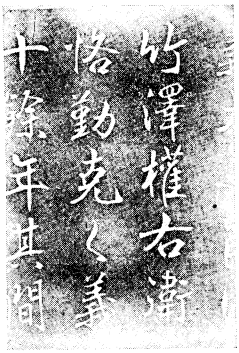
（必東墓）



泉必東。泉一ニ錢ニ作ル名ハ貞字ハ恆卿必東ハ其號ナリ浪華ノ人蒙所ニ學テ書ヲ能クス幼ヨリ畫ヲ好ミ四方ニ周遊シテ其技ヲ研キ後チ沈南蘋ノ畫法ヲ

竹澤權右衞門紀念碑　四天王寺

義太夫節は近松の靈文と義太夫の妙音と而して實に　始祖竹澤權右衞門



義太夫節三絃始祖
竹澤權右衞門碑

が三絃の名調とに依つて創造さる師は賦性謙抑恪勤克く義太夫を輔け新興義太夫節の完成に努むること三十餘年其間新作曲九十餘番を發表し曲譜の研鑽と子弟の教養に生涯を捧けたる斯道開發の恩祖なり宜なる哉其門葉蓁々と茂長し鶴澤野澤富澤豐澤花澤等皆竹澤の澤字を戴きて興り盛を今日に傳へたる將に師の偉績を天以て語らしむるものと謂ふ可し師逝きて二百餘年其遺流を汲む人々始祖の恩澤に潤ふこと久しきを德とし遠きを慕ひ影を追ふ切々の情懷凝つて茲に追慕記念碑建立の擧とはなりぬ

大正十五年四月　　木谷蓬吟識

（裏）

大正十五年四月

日本因會三味線部建之

石匠　新川太田傳

竹澤彌七墓

小橋寺町

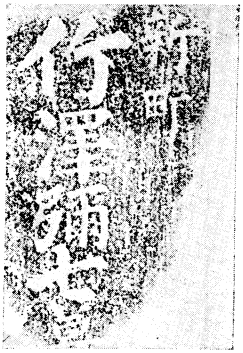
興德寺

（裏）

天保四巳八月十八日

天保十二辛丑年十二月立之

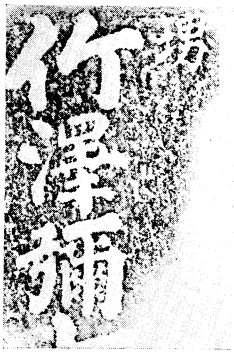
（新町竹澤彌七墓）



竹澤彌七墓

（堺竹澤彌七墓）

小橋寺町　興德寺



（裏）天保十二辛丑十二月立之

竹嶋簣山墓

（簣山竹嶋翁墓）

八丁目中寺町　誓安寺

天保八年丁酉三月四日卒

竹島蕉齋墓

（蕉齋竹島翁墓）

八丁目中寺町　誓安寺

文政十一年戊子三月七日

竹原澧水名吉字孟勞一字黃離號澧水世々醫ヲ大坂ニ施ス澧水其ノ業ヲ嗣キテ名アリ書ヲ好ミ趙陶齋ノ門ニ學ヒテ盛名アリ又篆刻ヲ善クス著ス所耽奇堂印譜二卷アリ（浪華名家著述目錄）

竹村雪啓墓

下寺町　遊行寺

（竹村雪啓先生墓）

（裏）
文化丙寅
年七月建
之

（左）壽譽海山信士靈

（右）辭世　世にをきし露か　飛梅
水のむ末期かな

初代竹本大隅太夫

逢阪　一心寺

（竹本大隅太夫）

（臺石）
尾張屋
新兵衛

元治元年十一月十三日
大隅軒至道曉雲禪士
延譽操壽貞正禪尼
明治四辛未四月廿五日

（左）

（右）二代目　竹本大住太夫建之

（裏）于時明治二稔　發起人
己巳十月　谷水

二代目
竹本梶太夫墓
（雲外轉生信士）

下寺町
遊行寺

（左）竹本梶太夫墓
（右）文化十一甲戌七月廿五日

竹本義太夫墓
（元祖竹本義太夫墓）

天王寺大道一丁目
超願寺

（左）釋道喜
（右）正德四甲午年九月十日

初代
竹本君（名カ）太夫墓
（勝嶽了義信士）

下寺町
遊行寺

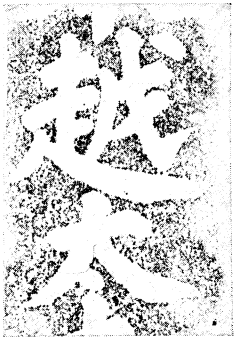
（左）男德齋直弟
竹本君（名カ）太夫
（右）寛政元酉年三月五日

竹本越太夫墓

生玉寺町
月江寺

（右）享和二壬戌年
二代目 竹本越太夫 俗名 宗兵衛
（左）夏四月十九日
三代目 竹本越太夫 俗名 安兵衛

（竹本越太夫）



三代目
竹本越路太夫墓　四天王寺北墓
（三代目竹本越路太夫墓）

（右側）　瑞光院寶譽越岸可雪居士
俗名　貴田恆二郎

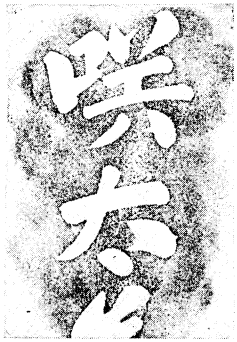
法譽轉珠禪定尼
俗名　たま
（裏）　大正十四年三月
貴田たま建之

三代目
竹本咲太夫墓
（竹本咲太夫墓）

下寺町
遊行寺
釋淨薫
妙貞

（右）　竹本咲太夫
（左）　文化五戊辰三月二日

六代目
竹本咲太夫墓
（竹本咲太夫墓）
下寺町　遊行寺



（右）玄龍　釋觀誠　龍幸

（左）明治十五年丑十一月
多滿太夫改七代目
竹本咲太夫建之

三代目
竹本住太夫墓
（竹本住太夫墓）
下寺町　遊行寺

（右）入岳淨住信士
（裏）丁天保八歲酉臘月廿六日凶

初代
竹本染太夫墓
（釋義道）
下寺町　遊行寺

竹本染太夫之塚
天明五乙巳年淸月中一日歿

四代目
竹本染大夫墓　下寺町　遊行寺

本就院成願
覺道居士

（右）四代目　竹本染太夫
（左）文政六癸未年十一月十七日
行年六十八歳
（裏）文政四辛巳年十一月建之

六代目
竹本染太夫墓　下寺町　遊行寺

（右）攝取院光譽明染禪定門
染譽光月禪定尼

（竹本染太夫墓）

（左）明治三歳次庚
子四月下浣
悴鶴澤叶
建之

五代目
竹本内匠太夫墓　下寺町　遊行寺
（五代目竹本内匠太夫）

（左）釋了圓　永春
釋妙圓　妙念
（右）釋淨圓
うめ
（裏）安政三丙辰十月十二日歿

三代目
竹本長門大夫墓
天王寺大道一丁目
松井寺

（梵字 法名 竹本長門大夫 長秀院仁融義傳禪定門）

（臺石）
若松屋
傳兵衛

嘉永四辛亥年八月建之

二代目
竹本長尾太夫墓
下寺町
遊行寺

（右）
金獅院猛踞眞性居士
靜室芳玉大姉

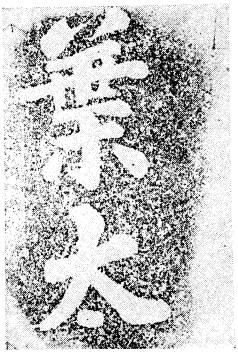
（裏）
金　明治二十六年十二月廿九日歿

明治卅二年十二月建之

（竹本長尾太夫）

竹本葉太夫墓
下寺町
遊行寺

（竹本葉太夫）



（左）
辭世
一ふしも朧
月夜の名殘
かな

寛政十一己未年

（右）　眞海如空信士

正月六日

竹本播磨少掾碑　天王寺西門墓地

翁名喜敎。字長右衞門。幼名長四郎。號政太夫。又號文正翁。藤姓。小原氏。大阪人。生有才情。長嗜歌曲。遊藝圃。而師竹本氏。迺所謂筑後掾。立一家之曲者也。翁爲其高弟。究其閫奧。遂繼其緒。冒竹本氏。襲號義太夫。皆由於其遺言云。享保乙卯歲。拜任播磨少掾。英名盛行。延傳播中華。姑蘇人沈草亭氏寓長崎。而遙聞翁之聲譽。藺慕不置。手寫其曲帖。深嘆其妙技。亦謂小道可觀之比耶。世之弄詞曲者。率從以執矩矱。及其門者。不可勝計。而親受口授者僅數十人。各勒其名。具于趺。皆執弟子之禮。愛敬親戴。殆使觀者感嗟其竹本播磨少掾浮圖制行。非孚于人。豈能然哉。業伍扮戲。而躬不屑與齒。踽々涼々。木訥自守。剪徹厓幅。不事粧飾。相其貌。則厖々然野人。蓋天賦之所使然。可以想見其爲人也。延享改元甲子年七月廿五日疾卒于家。享年五十有四。葬于安住寺之塋次。繼嗣喜治及門人等。經紀喪事。復就天王寺竟上擇清潔之

（不聞院乾外孤雲居士）

地一建二浮圖一。以擬二墓誌一。因系以レ銘曰。
執レ藝孔卑。如レ成レ名何。維翁□室。
久而有レ華。
延享甲子年九月十四日
穗積以貫伊助甫譔
孝子喜治　建
門弟子等

下寺町
遊行寺

竹本播磨大掾墓

（竹本播磨大掾碑）

（左）
文政十二己丑
歳十二月廿四
日
釋淨入

竹本筆太夫墓

〔梵字　涼安樂全信士靈〕

（左）（俗名　竹本筆太夫墓）

（右）
享和元辛酉歳
七月二十一日
（臺石）
明石屋善助

下寺町
遊行寺

竹本筆太夫墓

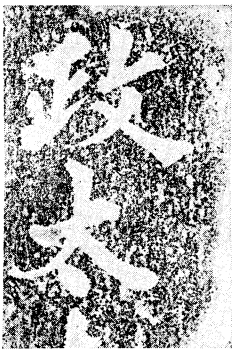
〔竹本筆太夫墓〕

（右）
都筆院安樂居士
都春院樂世大姉
（裏）
文政十年丁亥二月

三代目
竹本政太夫墓

〔播翁院亮喜居士〕

下寺町
遊行寺



（左）文化八辛未歳七月十四日
三代目
竹本政太夫

（右）播磨大掾藤原秀冨
門人中建

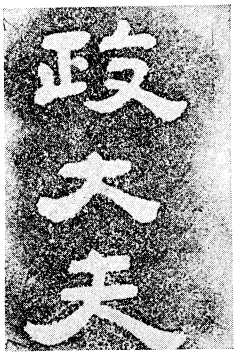
四代目
竹本政大夫墓

天滿西寺町
法界寺

（四代目竹本政大夫墓）

（臺石）
若狹屋藤助
木屋卯兵衛

（裏）
天保四年癸巳
七月廿三日

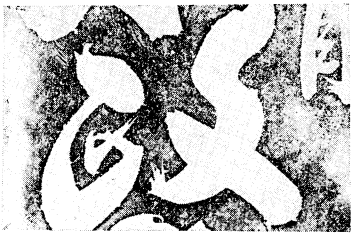


（右）專譽敎政禪定門
薫譽淸香禪定尼

（左）戒名數多アリ

五代目
竹本政太夫墓

（五代目竹本政太夫墓）



下寺町
遊行寺

（右）
釋良西
妙良

（左）
鶴澤才治
法名釋良圓

（裏）
天保十一庚子年六月廿二日……（政太夫沒日）
安政五年午八月十日於東都沒

初代
竹本彌太夫墓

小橋寺町
興德寺

（裏）
文化十年癸酉七月建之
庚文政三辰歲五月十日卒

（法室清住信士竹本彌太夫墓）

二代目
竹本彌太夫墓

（二代目竹本彌太夫釋願宗）

小橋寺町
興德寺

（右）
天保三壬辰年
四月

（左）
釋尼妙正

四代目
竹本彌大夫墓　下寺町　遊行寺
（竹本彌大夫）

（裏）
明治元年戊辰
臘月建之

（右）
法嚴良壽禪定門
祐嚴壽法禪定尼

（左）
五代目　長子太夫改　竹本彌太夫　建之

五代目
竹本彌太夫墓　逢阪　一心寺
（臺石裏）
木谷氏　建之

（五代目竹本彌太夫之墓）

（裏）
瑠璃院敎傳彌弘居士
明治三十九年十月三十日沒

竹本越前大掾墓　下寺町　遊行寺

（右）
安政二乙卯年六月七日
淨圓義道信士

（左）
六代目
竹本染太夫　建之

（竹本越前大掾藤原明卿墓）

橘千春墓

濱村墓地

橘千春者我姉也。適二安達氏一。紡績之暇。凝二心經史一。和書漢籍。無レ不二獵涉一。傍好二琵琶一。且嗜二和歌一。安達氏甚奇レ之。自レ是專二心於風雅一。一日偶會二于智源精舍一。賦二寄レ玉述レ懷一篇一。其辭曰。大城仁毛加布弊幾物乎世爾阿波氏多陀邇涙乃玉登那理由久。於レ是名聲藉甚。來請レ敎者不レ尠。文久壬戌五月五日病沒。享年三十九。葬レ此書二其略於碑陰一云。

（橘千春墓）

舅弟　松生正名撰

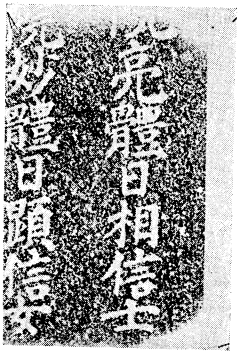
龍田善右衞門夫妻及少女墓

濱村墓地

〔仁孝誠敬感動鬼神〕

先君子諱　忠道。字善右衞門。姓龍田。播州加東郡山國人。夙遠二名利一。專務二農事一。娶二鳥居氏一。四男一女。皆能成レ家。季在寬。好レ學有レ立。寬永壬申年生。貞享甲子

（一如院亮體日相信士
事相院妙體日顯信女）



（臺石）
大桝屋

事相院妙體日顯ハ德叟妻ノ法諡ニシテ天保元年庚寅九月九日歿ス

近松門左衞門夫妻墓

谷町八丁目　法妙寺

近松門左衞門名ハ信盛本姓ハ杉森氏幼名ヲ彥四郎ト云フ平安堂ト號ス又巢林子不移山人ノ號アリ長門萩ノ人毛利侯ニ仕フ幼ニシテ肥前唐津近松禪寺ニ入リ髮ヲ削リテ古磵ト號ス博覽多通ニシテ才識超羣ス師某寺ニ住持セシム古磵謂ヘラク一寺ノ主ハ凡俗ニ異ナラス衆生ヲ濟度セント欲セハ豈唯圓頂方袍ノミナランヤト京都ニ至リ其弟岡本一抱ニ依リテ髮ヲ蓄ヘ出テ、一條家ニ代ヘ從六位ニ敍

（阿耨院穆矣日一具足居士
一珠院妙中日事信女）

（臺石）
施主
近松氏
正七

（裏）享保九甲辰年十一月廿一日

セラル博ク朝典ニ涉リ兼テ古學ヲ修ム既ニシテ致仕シ去リテ市廛ニ寓シ姓名ヲ改メテ近松門左衞門ト曰ヒ傳奇小說ヲ作テ業ト爲ス歌舞伎座萬太夫宇治加賀太夫井上播磨掾等ノ爲メニ淨瑠璃ヲ作リ元祿四年浪華ニ徙リ竹本筑後

掾ノ爲メニ淨瑠璃ヲ著ハス亦數十種是時ニ方リテ木偶ノ戲盛ニ行ハル率ネ皆淨瑠璃曲ヲ用フ然レトモ古曲ニ佳ナル者少シ近松乃チ創メテ之ヲ作ル文章巧緻ニシテ惻然人ヲ動カス而シテ其ノ嬉笑怒罵皆ナ至理アリ一時風靡シテ淨瑠璃ヲ道フ者近松氏ヲ宗トセサルハナシ其ノ著ハス所ノ曲ニ神代振袖始アリ人情ヲ假借シテ以テ神道ヲ論ス釋迦如來誕生會アリ遊劇ニ寄託シテ以テ佛理ヲ說ク國姓爺合戰アリ外事ニ根據シテ以テ國體ヲ示ス槍權三重帷子アリ巷談ヲ附會シテ以テ義勇ヲ鼓ス蓋シ皆ナ主トスル所アリテ以テ胸中ノ鬱勃抑塞ノ氣ヲ洩ラス徒作ニハ非サルナリ享保九年十一月二十二日ヲ以テ浪華ニ歿ス年七十二墓ハ大坂谷町寺町法妙寺及ヒ久々知村廣濟寺ニアリ（辭曲類纂、燕石十種）

○

平安堂近松翁墓碣

——大阪上神田鶴刀自所藏原稿——

平安堂近松翁。以レ善二戲文一聞二于海內一。後之作學。學二其體裁一以爲二師法一。蓋此方李笠翁也。其墓併二其配一在二浪華谷町法妙寺一。今爲二斷碑一。梅園主人新建二一碣一。使二予記一焉。按翁本姓杉森。諱信盛。字平馬。長門萩人。父諱某。母某氏。以二慶安四年辛卯一生レ翁。享保九年甲辰十一月廿一日歿。歲七十四。伯出家爲二相國寺宗長老一。仲善レ醫稱二岡本一抱子一。叔爲レ翁季女錦江爲二誹諧師一。各擅二其名一。翁初遊二學唐津近松寺一。入レ京事二一縉紳家一爲二雜掌一。後辭レ仕居二浪華一。變二姓名一稱二近松門左衞門一。號二平安堂巢林子一。爲二宇治加賀掾一作二戲文一。曰二團扇曾我一。其文大行。演劇百日改二題百日曾我一。實元祿十二年也。又作二國姓爺一曲一。演レ之三年。至レ今膾二炙人口一。翁於二事情一無レ所レ不レ盡。宛然口氣感二動人意一。其孝弟忠信禮義廉耻之風。使二人興起一。其功偉

矣。唯曾根崎一齣匹夫匹婦之諒。矢レ死俱斃。名曰二心中一。此風大行。害二於其政一。可レ謂二功不レ掩レ罪矣。然護園夫子一見二此文一。至二其夫婦趣レ死也。曰。一步霜消一步霜。五更三點唯餘レ一。喟然嘆曰。彼妙處在二阿堵中一。然則一功一罪在二善聽レ之者一。於レ翁何病焉。

文政四年辛巳中冬

江戸　蜀山人撰

浪華　梅園主人建

茅山　鳴　碣

衢士　墓

難波元町　瑞龍寺

嗟乎茅山衢士鳴。生三十一年而卒。遺孤遺姪等棺斂襄レ事如レ禮。其明年五月肇表レ墓。表レ墓之先一月。介二其友人松方好一。請二銘于元繼一。元繼士鳴師友也。義不レ可レ辭。迺承レ狀揮レ涕誌レ之。君諱貞謙。姓衢氏。字士鳴。茅山別號也。考諱某。妣鈴木氏。其先能登地黃人也。本姓辻。君自改爲二衢氏一。蓋義取二訓同字雅一也。家世農夫。至二考某一。分レ財釋二耒耜一。來二浪華一。業二賈吳服街一。不幸早逝矣。有二二男一。伯名眞芳。次卽君也。於レ是皆未レ免二襁褓一。故中表屬相與患二箕裘一。竟不レ濟。且爲二遺寡齒未一也。乞二吳姓之子一爲二接夫一。拮据有レ勞。憫二二子一如二所生一。衢氏之家。中微而復振者伊人焉。依

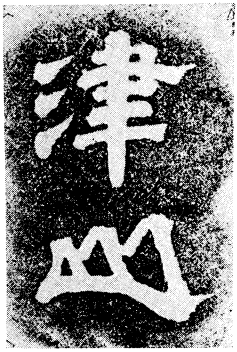
南岳藤澤恒撰　淺江名和喜書幷篆額

下寺町

遊行寺

津山檢校墓

（津山檢校墓）



（右）天保七年丙申三月六日沒

（左）戊戌五月　豐賀檢校建石

三代目

津山墓

下寺町

遊行寺

（裏）明治四年辛未八月二十五日歿　門人中

（三代目津山墓）

下寺町

遊行寺

二代目

鶴澤叶墓

（右）橘泉院潤譽可莽居士　釋尼妙恩

釋尼妙壽

（鶴澤叶墓）

（裏）明治十三年十二月五日建之

（左）老樹の果までも藝に遊ひて
塵塚に交へて　嬉し散もみち

初代
鶴澤寛治墓

（釋　教僊　妙調）

下寺町
遊行寺

（臺石）
鶴澤門弟中

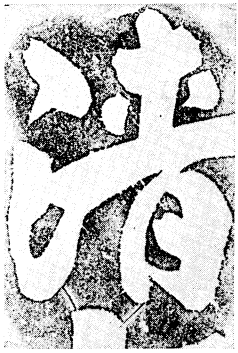
（裏）
安永五年丙申
九月建之

（左）鶴澤寛治墓

三代目
鶴澤清七墓

下寺町
遊行寺

（鶴澤清七）



（右）
釋清壽

（左）
壽勝
釋貞壽
壽榮

（裏）安政三丙辰九月廿三日没

二代目及三代目
鶴澤文藏墓

下寺町
遊行寺

（右）
鶴譽乘遊禪定門
柴一迎雲正順信女

（裏）
文政十年夏六月

（左）
天保五年甲午九月廿三日
傳吉改二代目文藏
行年五十四歳

趙陶齋墓

堺南宗寺內

本源院

（息心居士之墓）

居士名養。字仲頤。生於肥前之長崎。幼而喪二親。又無親族之可倚賴。時値華僧竺禪師初至東明山。投之爲佛子。學毘尼。着釋服二十年。以故歸俗。獨事遍歷。西自薩摩東至奥之金華。凡經歷五十八國。性好讀書寫字。而時刻不廢此事。又無師之可依。在東都十餘年。但交好學人。而幸無雜俗之所遇。其間偶爾無饑寒之逼。獨感天不生不祿之人。誠可爲然矣。漸而從遊之人有二十人三十人。只依議寫字之事而作法書。而與之。人呼爲寫字先生。在攝之大阪十餘年。今在泉之堺府。已得十四年。而身亦老矣。因病不得移步。又有小女。今年七歲。去年之春。諸子祝吾七十歲。自喜手眼如壯歲。生質魯鈍不得成文。又無可稱之事。若死則以此文字可刻墓陰。癸卯十一月卅日夜燈下書。

文學博士三嶋毅撰　時歳八十七
從七位黑木安雄書丹塡諱

下寺町
遊行寺

豐澤廣助墓

〔元祖豐澤廣助墓〕

（右）
文政七年甲申
閏八月十六日
歿
法號釋廣齋

三代目
豐澤廣助墓

下寺町
遊行寺

（左）弘化三丙午歳十二月廿二日卒

（三代目豐澤廣助墓）

（右）
圓譽淨心禪定門
音譽淨絃禪定門
國譽嚴淨禪定門
嚴譽淨智禪定尼
（廣助ノ法諡）

（裏）
月照淨音信女
淨譽智嚴禪定尼

四代目
豐澤廣助墓

逢坂上ノ町
天曉院

（四代目豐澤廣助之墓）

（臺石）

門弟中

慶應元年乙丑正月廿三日卒

歸譽實誠四廣禪定門

初代

豐竹靱太夫墓

下寺町

遊行寺

（右）釋了圓

釋妙順

（裏）了嘉永元戊申歲七月十一日沒

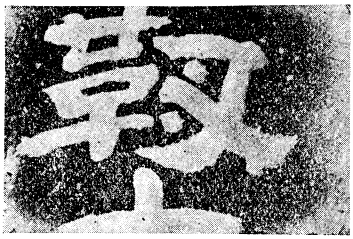
（豐竹靱太夫）

二代目

豐竹靱太夫墓

逢阪

一心寺



（臺石）

神谷

安以

（左）誠譽覺道禪定門
道譽智敎禪定尼
（裏）明治十六年六月廿八日建之

初代
豐竹鐘太夫墓

八丁目中寺町
超善寺

〔理學院誠譽一音響刹信士〕
〔榮壽院實譽眞月貞好信女〕
（左）（豐竹鐘太夫之墓）

（裏）操海自適信士
雲峰紫光信女

（右）堺屋次郎兵衛妻
久野女建之

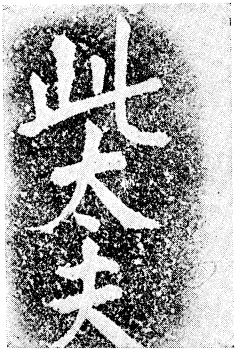
二代目
豐竹此太夫碑

逢阪
一心寺

（臺石）門人名列記

〔釋淨清〕

（左）（豐竹此太夫碑）



（右）安永六丁酉歲
八月建之

翁姓水野。名保道。字佐吉。淨清其法號也。其先大坂堂嶋人。少而學雜曲於筑前少掾藤子。天資□逸。夙臻其妙。別稱此太夫。嘗豐竹氏之嫡傳也。余輩師事之也久矣。今茲丁酉。相與議。作壽藏於城南一心寺中。翁于時五十有二歲。老

益壯。

三代目
豐竹駒太夫墓　下寺町　遊行寺

〔釋隨念〕

（左）三代目　豐竹駒太夫　釋妙響

（右）天保五甲午歲七月建之

三代目
豐竹時太夫墓　逢阪　一心寺

（豐竹時太夫碑）

（裏）寛政十一己未歲九月廿二日

（左）釋　理宗　妙信
宗休　普撮
（右）釋　馨誓（醫）
知誓

初代
豐竹巴太夫墓　下寺町　遊行寺

（裏）文政十一戊子年十二月十一日　行年六十歲

（左）俗名　豐竹巴太夫亮長

（右）文化十四歳在丁丑十二月建之

（妙聲院圓譽一道居士）

（臺石）

門

弟

中

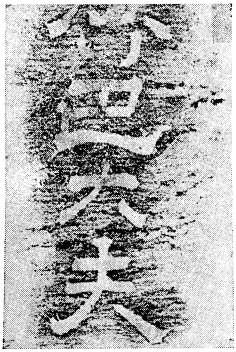
二代目

豐竹巴太夫墓

下寺町

遊行寺

（二代目豐竹巴太夫墳）



（裏）時

天保六乙未年

四月廿四日歸

寂

妻八重女

記之

圓譽聲頓禪定門

二聲の夢へさめたりほとゝきす

三代目

豐竹中太夫墓

下寺町

遊行寺

〔音利淨譽離現居士〕

（右）（三代目豐竹中太夫墓）

（左）

文政八酉八月

十八日

三代目
豐竹八重太夫墓　下寺町　遊行寺

〔釋了玄〕

（臺石）近江屋孫兵衛

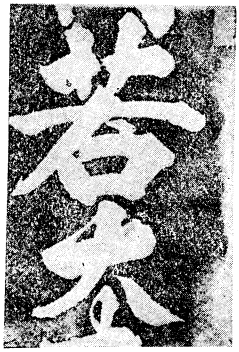
（右）（三代目豐竹八重太夫）

（左）文政四辛巳歲八月十日

四代目
豐竹若太夫墓　下寺町　遊行寺

（右）五代目　豐竹若太夫建之
鶴澤燕三

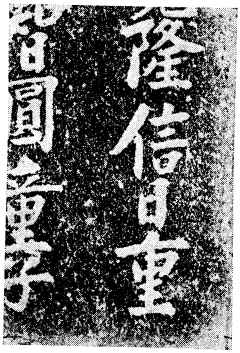
（四代目豐竹若太夫）



（左）明治三庚午年孟秋

豐竹越前少掾墓　西高津中寺町　本經寺

一音院眞覺隆信日重……（越前少掾ノ法諡）
妙法　本光智圓童子　各靈
乘光院貞如貞信日恭



（臺石）豐竹

（右）　妙法　豐信院隆應日律
宿善院妙應日芽
……
……
（左）　妙法　……　……（省略ス）
……　……
……　……

○

豐竹越前少掾追善碑

四天王寺　納骨堂畔

〔一音院眞覺隆信日重居士〕

明和元甲申年九月十三日終焉
行年八十四歲
于時
明和五歲戊子九月建之

姓名　豐竹越前少掾　藤原繁泰

鳥飼定榮墓

逢阪　一心寺

（定榮居士之墓）

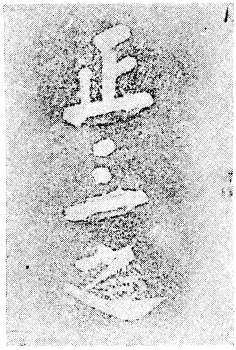
先考定榮居士。姓鳥飼氏。元祿癸酉五月五日生。於播州佐用

南誓願寺亡妻之塋側。私謚曰恭肅。

竝木正三墓

千日前　法善寺

（南無三寶　正三之墓）



（趺石）

播磨屋甚七

竝木正三。其父曰正作。雲州人破レ產提レ家移二大阪一。正三幼穎悟。長有二經世之才一。屢貧不レ應二器度一。是以隨二作劇者流竝木宗助一廣二其業一。原二夫劇曲一自レ古有焉。申樂一變爲二幸若一。又一變爲二淨瑠璃一。淨瑠璃美人之名也。賦レ之爲二十二齣一者。織田右府史女小野氏阿通云。聲師鶴澤者。上二三線玩一以奏。爲二三線一者。有二鶴澤氏一爲レ此也。當今劇本。以二紀海音近松平安堂等一爲二權輿一。以降寥々無レ聞。及三宗助大二其伎一。則□如二東西淨瑠璃勾欄劇本一不レ翅。至二正三一則俳優院本之諸檜及場上。機關結構。其妙計奇策。出二人意之外一。而且末淨丑如二示指レ掌者一。正三之力也。正三病向レ死大小劇子相集者。病惜レ不レ可レ救。當二是日一劇長中村歌七。告レ之曰。亡レ之命矣。請覺焉。正三歎曰南無三寶南無三寶。乃唱二歌一首一而終。南無三寶猶二周易所謂既濟一也。不二獨正三既濟一。而滿場劇子亦既濟故誌曰。

死登見世不死遠作乃花登見之爾

身乃散果乃何曾不似希流。

笹瀨散人撰
大手道人書

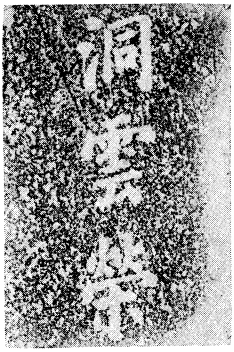
安永二癸巳二月十七日

高津中寺町

楢林榮迪墓

顯孝菴

氏楢林。諱榮迪。字伯啓。少好學。守箕裘。事刀圭。才敏工詩。時輩少匹。天不假年。罹疾不起。寶曆丙子十一月七日卒。齡三十歲。乃爲銘曰。



（洞雲榮迪墓）

孰與爾敏。孰奪爾年。何往可愬。嗚呼昊天。

菅晨耀子旭誌

上本町四丁目

西嶋是平墓

西光院

君諱宗勝。字是平。號菅闕。志州鳥羽人。本父强力博昌。母江碕氏。來嗣吾鄉西嶋勝行後。配以勝行女。生一男二女。皆早世。君爲人深默有思理。家世以曆爲業。因學曆法于浪華長涯閒先生。先生既歿。從令嗣確齋君。究其所未盡。遂介確齋君。通贄于東府日官高橋先生之門。近歲

（是平君墓碑）

西村時彦撰文　磯野惟秋書丹

上福島壹丁目

矢頭長助墓

淨祐寺

（矢頭長助之墓）

赤城之臣。四十七人惟一心。自周臣三千以往。和華古今之義烈。未能成之先也。宜乎許之以義人。固前載之所詳。奚贅余言矣。獨矢頭長助教照者。右衞門七教兼之父也。去赤城之後。父子相携。寓于難波。將死疾于牀。謂教兼曰。我父子與盟。今不幸未果而死。汝能投命殉節。忠孝兩全。我死且不朽。及其殁也。質襦鎧。貸金葬諸梅田。時元祿壬午八月十五日也。居亡何。武林子促東行。書至。遂僞假響襦鎧而東。當是之時。不復暇細謹矣。果不負父遺教。揚名于海內。雖婦人小子。莫不稱其忠孝矣。嗟乎非斯父。不能生斯子。非斯子。安能繼父志。吾州有河田冬川正休者。名士之後。頗好義。慷慨慕節。一日來告余曰。近我遊于難波。展矢頭君之墓。不壞不樹。六十一年于今矣。鞠爲茂艸。我爲之墮淚。惟古昔以懷其人。中心慘怛以彷徨。不知我者謂我何求。我不忍使絕世之士蕪沒其墓。今將欲樹碑表墓。子盍銘之。余亦深義之。迺爲之銘曰。

歲寒松柏。斯父斯子。彼蒼者兮。曷殄厥祀。身殁牀褥。心存忠烈。

骨兮朽矣。遺芳弗レ竭。

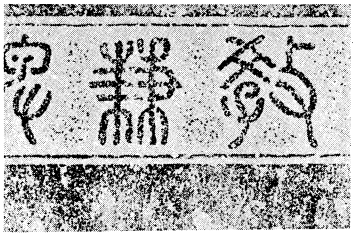
寶曆十二年壬午上巳日

讚州高松儒學　菊池武賢撰

讚州高松隱士　河田正休建

矢頭教兼碑

北梅田町　東福寺別院



（矢頭教兼碑）

右衞門七。父教照稱二長助一。家世赤穗藩

忠孝兩全。自レ古爲レ難。趙苞之忠。徐庶之孝。未レ爲二兩全一。吾求二其人一。今得レ之矣。矢頭教兼者播州赤穗人。通稱士。元祿十四年其主淺野長矩有レ故賜レ死沒レ封。其遺臣結レ盟謀レ討二主讐一。吉良義央一。教照父子亦與焉。去レ國之後潛二居于浪華一。既而教照以レ病而歿。遺二言教兼一曰。我與二諸臣一將レ謀二義舉一。不幸死レ牀不レ能レ果レ志。汝能復レ讐死レ義。則忠孝兩全。我死不レ朽矣。教兼感泣受レ教。及二父歿一葬二之于城北曾根崎奧之坊一。十五年十二月。遺臣終有二復讐之舉一。教兼擊二敵良烏井某一。殪レ之。嗚呼教兼不レ負二遺教一。能守レ義殉レ節。所謂忠孝兩全是非其人乎。十六年二月。教兼同二同盟四十五士一。官裁處レ死。行年十七。謚曰二刃擲振劍一。葬二于江戶芝泉岳寺一。以三教兼嘗寓二浪華一。建二碑于奧之坊一。文政中燒毀不レ存。頃者浪華人森村壽。清水梅民與二同志一議。再建二其碑一。請二予銘一。

銘曰。

守二父遺教一。能復二君讐一。一舉兩全。

流二芳千秋一。趙忠徐孝。孰劣孰優。

明治紀元戊辰冬十一月

浪華　杏村學人河野逸撰

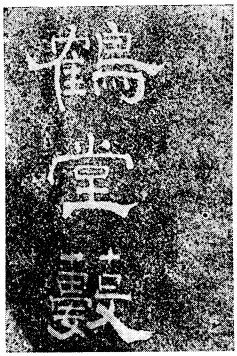
小寺靜　篆額并書

八丁目中寺町

藪鶴堂墓

梅松院

（鶴堂藪翁墓）



嘉永二年己酉

十月朔歿

享年七十七

○

鶴堂藪翁墓碣銘

奥野小山

翁諱平。字大平。稱二平三一。鶴堂其號。淡州福良人。少小養二於大坂布商某氏一。遂傳二大坂籍一。嗜レ讀レ書。受二業於京儒佐野氏一。後產業衰替。退隱二於城南駒池一。始有二以レ儒興レ家之志一。其友進焉。下二帷於鰻谷一。後徙二長濠一。生徒麕集。絃誦不レ絕。其講レ書低聲徐說。辨以二俚言一。故雖二婦人小子一。皆能領二其旨一。好賦レ詩最喜二白香山陸放翁一。故其詩冲澹雅麗。絕無二羞澁態一。翁長レ余二十七歲。而每レ作レ詩必示レ余。使レ言二其疵瑕一。其不レ耻二下問一。皆此類。嘉永己酉十月朔病歿。享年七十七。葬二於梅松院一。翁爲レ人脫洒。不レ脩二邊幅一。與レ人對酌。滑稽百端。旁人絕倒。而翁自若也。晚歲付二家事於嗣子一。晴日携二一瓢一而出。看レ花聽レ鳥。醉哦逍遙。所レ著有二鶴堂詩集若干卷一。配星野氏生二

八日菴萬和墓

（八日菴萬和之墓）

天王寺東門

清壽院

（裏）

于時文政第十
丁亥年九月二
十七日
社中建

○

八日菴萬和俳人ナリ文政十年丁亥五月十七日歿（墓所集）

夕霧墓

下寺町

淨國寺

（左）

此塚ハ柳なくてもあはれ也

夕霧墓

（花岳芳春信女）

曰人誤破レ之則生レ病。向ニ一花

（右）一水ニ則病既退。

文久三年癸亥七月再興之

（裏）

延寶六年午正月六日歿

扇屋四郎兵衛

百合太夫碑

清水北阪下

泰聖寺

（臺石）百合太夫碣

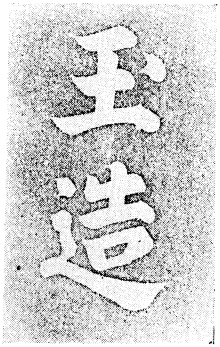
西村百翁。往歳五十有七。寶暦第十二

父政充。至レ君五世繼二其業一。家二田野浦一。君弱冠受學于嶋峰谷子一。後入レ京受レ學於二西依成齋一。內科于二淺井賴母一。外科于中堀左仲上。父沒讓二家弟義存一。僑二居難波一。君外貌遲鈍。內實明惠。爲レ人謀而忠。受二託寄一如二己身一。常傾二心本國有政一。于二難波之邸一。陰贊二有司議一。裨二輔闕漏一。忠告善導。縷々不レ錯焉。而一味懇篤。有二孚レ人之心一。故能効二其力一焉。煮鹽之方。鐵冶之製。百方講究。爲二圖說一。詳悉明備。使三之可二舉行一者。亦爲二本國一之故也。天明三癸卯年四月。賜レ祿列二留守居部一。同四甲辰年三月。得レ病卒不レ起。四月七日沒。享年五十有八。銘曰。

未レ仕而仕。仕而忽泯。一抔馬鬣。一團忠魂。

二代目 吉田玉造墓

（二代目吉田玉造墓）



（裏）明治四十二年三月建之

（右）秀譽了專禪定門

（左）永壽院善譽玉泉居士

天滿西寺町　法輪寺

吉田東嶽墓

生玉寺町　月江寺

東嶽。姓吉田。名桓。字斐卿。一字周治。東嶽其號也。其先世河州人。文和中楠正儀麾下之士云。後楠家不レ競。其麾下往

喬木眞翁　〔二八〇〕
高木東陽　〔二八一〕
高崎親章　〔二八二〕
高田樗堂　〔二八四〕
高田樗堂妻　〔二八四〕
高田萬華軒　〔二八四〕
高橋多一郎父子　〔二八五〕
高橋鈍齋　〔二八八〕
高橋正純　〔二八九〕
高見照陽　〔二九一〕
高安北邨　〔二九一〕
瀧松隱　〔二九一〕
瀧松隱妻　〔二九二〕
瀧誠齋　〔二九三〕
瀧野玉虹　〔二九三〕
瀧野合鏡　〔二九六〕

瀧野鏡心　〔二九六〕
瀧野如水　〔二九七〕
武内確齋　〔二九七〕
竹澤權右衞門紀念碑　〔二九九〕
竹澤彌七（新町）　〔二九九〕
竹澤彌七（堺）　〔三〇〇〕
竹嶋簀山　〔三〇〇〕
竹島蕉齋　〔三〇〇〕
武谷六甲　〔三〇一〕
竹原篤翁　〔三〇一〕
竹原澧水　〔三〇一〕
竹村雪啓　〔三〇三〕
竹本大隅太夫（初代）　〔三〇三〕
竹本梶太夫（二代）　〔三〇四〕
竹本義太夫（元祖）　〔三〇四〕
竹本君太夫（初代）　〔三〇四〕

竹本越太夫（初代）　〔三〇四〕
竹本越路太夫（三代）　〔三〇五〕
竹本咲太夫（三代）　〔三〇五〕
竹本咲太夫（六代）　〔三〇六〕
竹本住太夫（三代）　〔三〇六〕
竹本染太夫（初代）　〔三〇六〕
竹本染太夫（四代）　〔三〇七〕
竹本染太夫（六代）　〔三〇七〕
竹本内匠太夫（五代）　〔三〇七〕
竹本長門太夫（三代）　〔三〇八〕
竹本長尾太夫（二代）　〔三〇八〕
竹本葉太夫　〔三〇八〕
竹本播磨少掾　〔三〇九〕
竹本播磨大掾　〔三一〇〕
竹本筆太夫　〔三一〇〕
竹本筆太夫　〔三一〇〕

竹本政太夫（三代）　〔三一一〕
竹本政大夫（四代）　〔三一一〕
竹本政太夫（五代）　〔三一二〕
竹本彌太夫（初代）　〔三一二〕
竹本彌太夫（二代）　〔三一二〕
竹本彌大夫（四代）　〔三一三〕
竹本彌太夫（五代）　〔三一三〕
竹本越前大掾　〔三一三〕
橘千春　〔三一四〕
龍田善右衞門夫妻及少女　〔三一四〕
龍田善達　〔三一六〕
田中橘泉　〔三一七〕
田中杏享　〔三一七〕
田中杏亭妻　〔三一九〕
田中橘齋　〔三一九〕

冨永北海　〔三五八〕
冨永九華　〔三五八〕
冨永馥洲　〔三五九〕
戸谷澹齋　〔三六〇〕
外山脩造　〔三六〇〕
豐澤廣助（元祖）　〔三六二〕
豐澤廣助（三代）　〔三六三〕
豐澤廣助（四代）　〔三六三〕
豐竹靱太夫（初代）　〔三六四〕
豐竹靱太夫（二代）　〔三六四〕
豐竹鐘太夫（初代）　〔三六五〕
豐竹此太夫（二代）　〔三六五〕
豐竹駒太夫（三代）　〔三六六〕
豐竹時太夫（三代）　〔三六六〕
豐竹巴太夫（初代）　〔三六六〕
豐竹巴太夫（二代）　〔三六七〕

豐竹中太夫（三代）　〔三六七〕
豐竹八重太夫（三代）　〔三六八〕
豐竹若太夫（四代）　〔三六八〕
豐竹越前少掾　〔三六八〕
豐竹越前少掾追善碑　〔三六九〕
鳥飼定榮　〔三六九〕
鳥飼定榮妻　〔三七〇〕
鳥飼洞齋　〔三七一〕
鳥飼洞齋妻　〔三七一〕
鳥飼德雄　〔三七二〕
鳥飼定隆　〔三七二〕
鳥飼永定　〔三七三〕
鳥飼永定妻　〔三七四〕
鳥飼定康　〔三七四〕
鳥飼篤　〔三七五〕
鳥飼元女　〔三七六〕

鳥飼休彰　〔三七六〕
鳥山崧岳夫妻　〔三七七〕
鳥山芝軒　〔三七七〕
鳥山芝軒妻　〔三七八〕
鳥山香軒　〔三七八〕
土井芝山　〔三七九〕
土井芝山妻　〔三八〇〕
土井桂山　〔三八〇〕

ナ

中江珉山　〔三八一〕
中川收齋　〔三八二〕
中川順節　〔三八四〕
長澤蘆雪　〔三八五〕
中嶋貫齋　〔三八六〕
中嶋源藏常明　〔三八七〕

長嶋惠義　〔三八八〕
長島廉齋　〔三八九〕
長島廉齋妻　〔三八九〕
永田貞右　〔三八九〕
永田貞柳追善碑　〔三九一〕
中谷雲漢　〔三九二〕
永冨獨嘯庵　〔三九二〕
中西石樵　〔三九六〕
中西石樵妻　〔三九七〕
中東湟翁　〔三九八〕
中村歌右衛門（三代）　〔三九九〕
中村周軒　〔四〇〇〕
中村正親　〔四〇一〕
中村善兵衛　〔四〇一〕
中邨僧鄰　〔四〇二〕
中村白翁　〔四〇三〕